Zephyros 91

国立西洋美術館ニュース　ゼフュロス

ISSN 1342-8071

Exhibitions

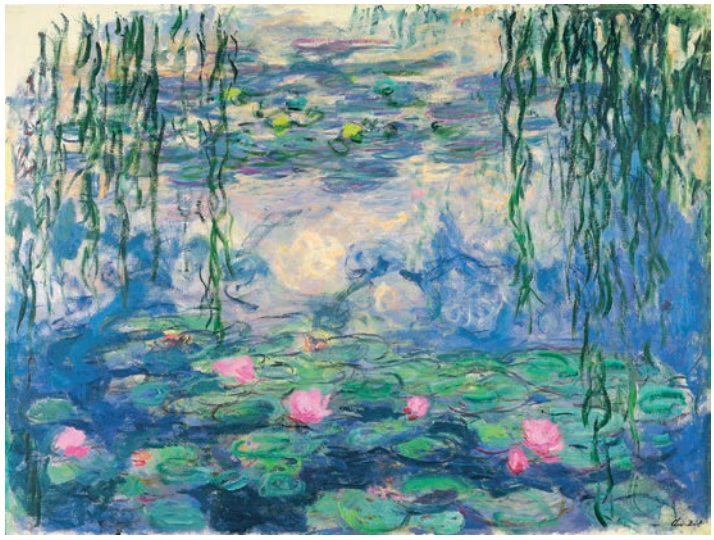
モネ 睡蓮のとき

会期：2024年10月5日［土］―2025年2月11日［火・祝］｜会場：企画展示室

1

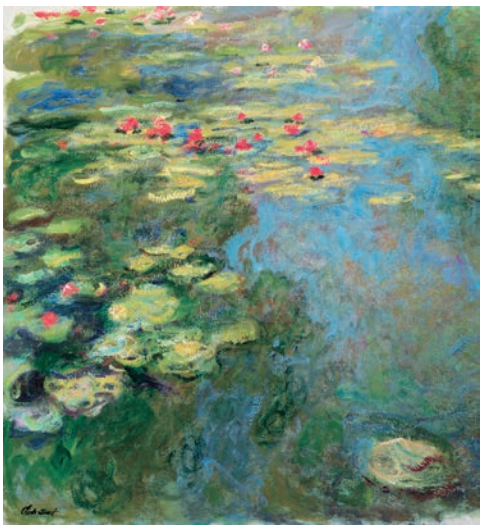
2

3



4

Monet: The Late Waterscapes



5

6

表紙（部分）／1
クロード・モネ《睡蓮、夕暮れの効果》
1897年　油彩／カンヴァス　73 x 100 cm
マルモッタン・モネ美術館、パリ
© musée Marmottan Monet / Studio Christian Baraja SLB

2　クロード・モネ《藤》
1919-1920年頃　油彩／カンヴァス　100 x 300 cm
マルモッタン・モネ美術館、パリ
© musée Marmottan Monet

3　クロード・モネ《睡蓮》
1914-1917年頃　油彩／カンヴァス　200 x 200 cm
マルモッタン・モネ美術館、パリ
© musée Marmottan Monet

4　クロード・モネ《睡蓮》
1916-1919年頃　油彩／カンヴァス　150 x 197 cm
マルモッタン・モネ美術館、パリ
© musée Marmottan Monet

5　クロード・モネ《睡蓮の池》
1917-1919年頃　油彩／カンヴァス　130 x 120 cm
マルモッタン・モネ美術館、パリ
© musée Marmottan Monet

6　クロード・モネ《睡蓮、柳の反映》
1916-1919年頃　油彩／カンヴァス　200 x 200 cm
マルモッタン・モネ美術館、パリ
© musée Marmottan Monet

2024年は、1874年にパリで第1回印象派展が開かれてからちょうど150周年を迎える年です。印象派を代表する画家のひとりであるクロード・モネ（1840-1926）は、自然の移ろいゆく光や大気の効果を追求するなかで、同一のモティーフを異なる時間や天候のもと繰り返し描く、「連作」の手法を確立したことでも知られます。1890年、50歳になったモネは、7年前に移り住んだノルマンディー地方の小村ジヴェルニーの土地と家を買い取り、これを終の棲家としました。そして数年後には新たに土地を買い足し、睡蓮の池のある“水の庭”を造成します。この睡蓮の池こそ、1926年の死にいたるまで数十年にわたりモネの心を占め続けた、最大の創造の源にほかなりません。本展では、世界最大のモネ・コレクションを誇るパリのマルモッタン・モネ美術館の所蔵作品およそ50点に、日本各地に所蔵される作品を加えた計65点のモネの絵画を展覧し、〈睡蓮〉連作を中心とする画家晩年の芸術の豊かな展開をご紹介します。

モネの晩年は、最愛の家族の死や自身の眼の病、第一次世界大戦といった多くの困難に直面した時代でもありました。そんななかでやがて彼は、睡蓮の池の水面を描いた巨大なカンヴァスによって部屋の壁面を覆いつくす、“大装飾画”の構想を抱きます。そのためにモネは新たに広大なアトリエを建設し、このアトリエにおいて、戸外で描かれた大画面の習作をもとに幅4メートルから6メートルにもおよぶ装飾パネルの制作に取り組みました。それは、自然の印象から出発して、その印象を記憶とともに内面化しつつ再構成する試みであり、いうなれば印象派絵画を超える挑戦でもありました。本展の中心をなすのは、この“大装飾画”の制作過程で生み出された大画面の〈睡蓮〉の数々です。未完の構想を外に出すことを嫌ったモネは、これらの作品の大部分を最期までアトリエに残しましたが、彼が生前に唯一、その装飾パネルのひとつを手放すことを認めた相手が、日本の実業家で収集家の松方幸次郎（1866-1950）でした。松方はジヴェルニーのモネの家まで足を運んで画家と交流し、最終的に30点以上ものモネの作品を収集しました。それらは今日、国立西洋美術館のコレクションの白眉をなしています。

本展は、日本において過去最大の規模でモネの〈睡蓮〉が一堂に会する場であるのみならず、2016年に再発見された松方旧蔵の《睡蓮、柳の反映》を含む当館所蔵のモネ作品と、密接な関連性をもつ同時期の作品群とを比較することができる、貴重な機会でもあります。

［国立西洋美術館研究員　山枡あおい］

Exhibitions

オーガスタス・ジョンとその時代
──松方コレクションから見た近代イギリス美術

会期：2024年10月5日［土］─2025年2月11日［火・祝］
会場：版画素描展示室

松方コレクションには、ロイヤル・アカデミーに対抗して1886年に新たな展覧会組織を作ったニュー・イングリッシュ・アート・クラブ（New English Art Club［=NEAC］）や、その保守化に対して1911年に結成されたカムデン・タウン・グループ、コーンウォールの漁村で戸外制作に励んだニューリン派など、世紀転換期にフランス近代絵画の発展に呼応しつつ、自らの道を模索した数々のイギリスの画家たちの作品が含まれていました。

なかでもオーガスタス・ジョン（1878-1961）は、卓越したデッサン力と大胆な色彩、そしてボヘミアン的生活によって、第一次世界大戦前にはイギリスで最も革新的な画家として注目を集めたウェールズ出身の画家です。スレード美術学校卒業後、NEACやカムデン・タウン・グループ等に参加しつつ、ニューリン派とも交流をもちました。1920年代にかけて著名人の肖像画を次々と手がけて名声を確立した後は急速に忘れ去られましたが、イギリス最初のポスト印象派に数えられています。

松方幸次郎は1916-1918年のロンドン滞在中にジョンと交流をもち、30点を数える作品を購入しました。不運にも松方旧蔵の油彩画はほぼすべて倉庫火災で焼失しましたが、当館では、近年、購入や寄贈を通じて素描12点と版画2点を所蔵するにいたっています。本小企画では、松方コレクションより、オーガスタス・ジョンの素描を中心に、同時代の画家たちの素描や版画、油彩画も加えた展示を通じて、日本では紹介される機会が少ない世紀転換期イギリスの芸術動向やネットワークに光をあてます。

［国立西洋美術館主任研究員　陳岡めぐみ］

オーガスタス・エドウィン・ジョン《イーディス・リーズ》
1910年頃　鉛筆／紙　国立西洋美術館　平澤氏より寄贈（旧松方コレクション）
© The Estate of Augustus John / Bridgeman Images

Collection

新規展示の
旧松方コレクション作品について

ルドヴィーコ・カラッチ《ダリウスの家族》

ルドヴィーコ・カラッチ《ダリウスの家族》
1591-1592年頃　油彩／カンヴァス　国立西洋美術館
蜂谷克己氏御遺族より寄贈（旧松方コレクション）

今年3月より、ルドヴィーコ・カラッチ作《ダリウスの家族》という作品を初公開しています。これは、松方幸次郎がイギリスで購入し日本に持ち込みながら戦前の売立展で散逸したもので、2010年に当時のご所蔵者から当館へご寄託、2019年にご寄贈いただいたもので、様々な調査や作業を経て、ようやく展示に至りました。

ダリウスとは、マケドニアのアレクサンドロス大王と戦い破れたペルシャ王、ダレイオス3世のことです。戦いの後、大王は捕虜となったダリウスの家族の元を訪れますが、そこでダリウスの母は大王と随臣を取り違えて挨拶するという無礼を働いてしまいます。しかし大王はそれを許し、さらに彼女たちを王族として丁重にもてなした、という物語で、アレクサンドロスの寛容さと慈悲深い施しの行為を称えるものです。しかし画面の中央にいるのはダリウスの妻と子どもたちで、画面右にダリウスの母の横顔が覗きます。元来は、右側にさらに画面が続き、恐らくはそこにアレクサンドロスがいたものと想像されます。作品の全容を知るには引き続き調査を続けていく必要があります。しかし今回の展示に先立ち、ワニス層の表面に蓄積していた汚れを洗浄し、暗く沈んでいた色彩の一部がよみがえりました。

この機に皆さんにもご覧いただければ幸いです。

［国立西洋美術館主任研究員　川瀬佑介］

Programs

ふかぼりCollection in FOCUS 2024

「ふかぼりCollection in FOCUS」と題する本企画では、常設展内小特集「Collection in FOCUS」に連動し、特集展示を担当した当館学芸課研究員によるギャラリートークやレクチャーをご案内します。少人数制プログラムならではの資料の実見などを含みつつ、大人のみなさまに楽しんでいただける内容を準備中。当館活動にもう少しふかく触れてみたいと思ってくださる方々に、まさに一歩踏み込んで「ふかぼり」していただく機会になれば幸いです。2024年度はゆっくりと常設展を楽しめる夜間開館中での実施を予定しています。お仕事帰りのご参加、年間パスポートご利用とも相性ばっちり。各回の詳細・参加申込は当館ウェブサイトでご案内します。 ［国立西洋美術館研究員 秋田美緒］

［実施予定プログラム］

1｜はこぶ：『クレート』── 美術作品の輸送を支える箱

10月25日［金］18:00–19:30｜講師：髙嶋美穂（特定研究員）

※本プログラムが関連する展示コーナーはCollection in FOCUSには該当しませんが、今年度特にご覧いただける特集企画として「ふかぼり」いたします。

2｜あわせる：印象派とナビ派の装飾画

11月22日［金］18:00–19:00｜講師：袴田紘代（主任研究員）

3｜みわける：ユディトとサロメ

12月21日［土］18:00–19:00｜講師：渡辺晋輔（学芸課長）

昨年度開催の様子

Programs

「美術館でクリスマス」── 冬の美術館を楽しもう

今年のクリスマス・シーズンは国立西洋美術館を訪れて、当館所蔵作品の鑑賞をじっくりと楽しみませんか? 11月末からの約1ヶ月、様々な企画をご用意して皆様をお待ちしています。12月14日［土］、15日［日］はコンサートのほか、ボランティア・スタッフによるギャラリートークや、気軽に参加いただける独自企画「ボランティアート」を開催予定。（昨年は小さなクリスマス飾りを作りました。今年の内容はお楽しみに。）また、毎月恒例のKawasaki Free Sunday（12月8日［日］、常設展無料観覧日）ではクイズラリーを実施します。2007年より続く本企画は、キリスト教を題材とする作品群が豊富な当館の冬の風物詩。来館される皆様の美術館体験がより良いものになるようスタッフ一同、腕によりをかけて準備を重ねています。今シーズンにあわせて制作する、当館研究員による音声ガイドをお供に展示室で過ごされるもよし、季節を感じながらカフェやショップでゆっくりされるもよし。

かけがえのない冬のひとときをぜひお好きなスタイルでお過ごしください。

［国立西洋美術館特定研究員 白濱恵里子］

※事前申込が必要なプログラムもあります。詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。

News

来館者サービス向上のための取り組み ── 快適な鑑賞環境をめざして

国立西洋美術館ではより多くの方に作品鑑賞を楽しんでいただくため、アクセシビリティの向上に取り組んでいます。今年度提供を開始するサービスについて、その一部をご紹介いたします。

1 **手話による動画解説** 常設展示作品約30点について、日本手話による解説動画をご用意しました。「手話のみの動画」と「手話を補助する字幕つき動画」の2バージョンからお選びいただけます。ご利用の際はインフォメーションにお尋ねください。

2 **託児サービス** 来館に対するハードルが高いと感じている小さなお子様連れのお客様も、お子様を預けてゆったりとした作品鑑賞のひとときをご満喫ください。（要事前予約、先着順。実施日についてはホームページをご覧ください。）

3 **ベビーケアルームの設置** 地下1階にベビーケアルームを設置いたします。授乳や搾乳などに使える場所が増え、より気軽にご利用いただけるようになります。

あらゆる来館者の方にとって美術館がよりよい場所になるよう、今後もさまざまな取り組みを進めて参ります。ご来館の際は、そういった当館の変化にも着目いただけますと幸いです。

バリアフリー・アクセシビリティ情報についてはこちらをご覧ください。
https://www.nmwa.go.jp/jp/visit/accessibility.html

［国立西洋美術館経営企画・広報渉外室 反田みさと・隈部理香子］

［CAFÉ すいれん］

営業時間：10:00–17:30（食事11:00–16:45｜喫茶10:00–17:15）／金・土曜日10:00–20:00（食事11:00–19:10｜喫茶10:00–19:30）

※企画展「モネ 睡蓮のとき」会期中の金・土曜日は下記の営業時間となります。営業時間：10:00–21:00（食事11:00–20:10｜喫茶10:00–20:30）

［ミュージアムショップ］

当館所蔵作品の代表作、クロード・モネ《睡蓮》は、当ショップを訪れる皆様からグッズを希望されることの多い人気の作品です。これまで大変多くのリクエストをいただいていた、睡蓮を配したお菓子缶を発売することになりました。

缶には、蓋全面に睡蓮をプリントし、側面に睡蓮の絵から抜き出した色、紫と青を配置しました。睡蓮の絵の前に立ちじっくり鑑賞していると、絵の中から様々な色が浮かび上がってきます。その中からどの色を用いるか、美術館のさまざまな部署のスタッフが頭を悩ませながら選んだのが側面の色です。蓋の上下の向きを変えると、手前に来る色の面が変わり、気分や空間の雰囲気に合わせて楽しんでいただけるように考えました。ぜひ生活空間に置いていただき、睡蓮の彩りをお楽しみください。

缶に詰めたお菓子のシガールはバターのコクと風味のサクサクとした口当たり。シェアしやすい個包装です。

ご来館・ご鑑賞の記念に、プレゼントやお土産として、ぜひご利用ください。

オンラインショップ
https://www.nmwatokyo-shop.org

ミュージアムショップ公式Instagram
@nmwatokyo_shop

モネ《睡蓮》
お菓子缶
（ヨックモック プティ シガール16本入り）
1,600円（税込み）
こちらの商品は9月末より
販売開始いたします。店頭販売のみ。

クロード・モネ《睡蓮》
1916年 油彩／カンヴァス
国立西洋美術館 松方コレクション

展示カレンダー［企画展示／常設展示］2024年9月—2025年2月

9月［Sep.］　10月［Oct.］　11月［Nov.］　12月［Dec.］　1月［Jan.］　2月［Feb.］

常設展

全館休館
9月2日［月］
↓
9月13日［金］

［小企画展］10月5日［土］—2025年2月11日［火・祝］
オーガスタス・ジョンとその時代——松方コレクションから見た近代イギリス美術

［企画展］10月5日［土］—2025年2月11日［火・祝］
モネ 睡蓮のとき

全館休館
2月12日［水］
↓
3月9日［日］

［開館時間］9:30–17:30
（毎週金・土曜日 9:30–20:00、ただし企画展「モネ 睡蓮のとき」会期中の金・土曜日は9:30–21:00）＊入室は閉室の30分前まで
［休館日］月曜日（月曜日が祝日又は祝日の振替休日となる場合は開館し、翌平日休館）、展示替期間、年末年始、臨時休館日
［臨時開館・臨時休館等のお知らせ］
臨時開館：2025年2月10日［月］｜臨時休館：2024年10月4日［金］
展示替え休館：2024年9月2日［月］—9月13日［金］、2025年2月12日［水］—3月9日［日］
年末年始休館：12月28日［土］—2025年1月1日［水・祝］
［常設展無料観覧日］10月13日*、11月3日（文化の日）、11月10日*、12月8日*、2025年1月12日*、2月9日*
（*当館オフィシャルパートナー・川崎重工業株式会社の提供による「Kawasaki Free Sunday」（原則毎月第2日曜日））

［常設展］
国立西洋美術館は、松方コレクションが核となって1959年に設立された、西洋の美術作品を専門とする美術館です。
中世から20世紀にかけての西洋絵画と、ロダンをはじめとするフランス近代彫刻などを本館、新館、前庭で年間を通じて展示しています。

• 展覧会名、会期、展示内容等は変更の可能性があります。最新の情報は国立西洋美術館公式サイトをご確認ください。

国立西洋美術館
The National Museum of Western Art
［東京・上野公園］

国立西洋美術館
〒110-0007 東京都台東区上野公園7-7
公式サイト https://www.nmwa.go.jp/
お問い合わせ 050-5541-8600（ハローダイヤル）

［国立西洋美術館 SNS 公式アカウント］
X @NMWATokyo
Facebook @NationalMuseumofWesternArt
Instagram @NMWATokyo

Zephyros 91
ゼフュロス第91号｜編集・発行：国立西洋美術館／2024年9月12日（年3回発行）｜協力：公益財団法人西洋美術振興財団｜デザイン：木村稔将
「ZEPHYROS」（ゼフュロス）はギリシャ神話の神々のひとりで、西風を司る神様の名前です。西欧では暖かさと色さまざまの花々を運ぶ春の風をさします。